



お元気ですか!
志村 たかよし です

第923号 2019年1月27日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

矢田区長（8期32年）が引退表明

「高度成長型のまちづくり」を見直す契機に



矢田区長に予算要望書を提出する中央区議団＝2018.9.27

1月17日、矢田美英中央区長は記者会見を開き、今年四月に行われる区長選挙への不出馬を表明しました。

矢田氏の自慢は「人口増」

記者会見で、矢田氏が自らの功績としてあげたのは「人口増」でした。

就任時（87年）に約8万5千人だった人口は、約16万3千人に増加しました。

人口急増による弊害

中央区の人口増は、住宅建設の規制緩和と大手デベロッパー主導のタワーマンション建設によるものです。

大規模開発によって、街の歴史や人の暮らし、培われた文化が破壊され、人口の急増は、区民サービスの質の低下をもたらしています。

政府の「下請け機関」として

市街地再開発事業、都市再生特区、国家戦略特区などの大規模開発は、政府が求める「国際競争に勝つ都市づくり」そのものです。

矢田区長は、吉田不曇副区長らとともに、中央区を政府の「下請け機関」にしてしまい、私たちの街を大企業のための儲けの場に開放してしまったのです。

これからの都市のあり方は

土地をまとめて高く大きいビルを建てる。

画一化されたどこにでもある超高層ビルを林立させる。

住民犠牲の「高度成長型のまちづくり」をこれからも続けていいのでしょうか。

コンクリートではなく木造建築を生かした中低層の街を。

いまある建物をリノベーションして生かす街を。

居心地の良いヒューマンスケールの街を。

長屋や路地を宝物として磨いていく街を。

地域コミュニケーションを育み、住んでいて心地よい街を。

矢田区長の引退を、「高度成長型のまちづくり」から「くらし福祉重視型のまちづくり」への転機にしましょう。

市街地再開発事業の間 (33) 地球温暖化ガス(CO2)増加

中央区では、東京駅前や京橋・日本橋地域で超高層オフィスビルが次々と立ち上がっています。

これまで市街地再開発事業によるタワーマンションを中心に取り上げてきましたが、今回は、市街地再開発事業を含む大規模開発による超高層オフィスビルについて検証します。

たくさんの人や企業が集中する超高層建物は、地球温暖化や環境悪化の大きな要因の一つであるCO₂（二酸化炭素）を大量に発生させます。

大規模開発によって、発生量がどれくらい増えるのか、区に調べてもらいました。

その結果が下の表です。

年間当たりのCO₂発生量（トン）を、既存建物の規模・用途から区が推計したものです。

市街地再開発事業で行われた7事業には、太字でアンダーラインをしました。

7事業による

・既存建物のCO₂発生量は

8万1335t

・建替後のCO₂発生量は

14万295t

で、CO₂は1.7倍に増加することがわかりました。

市街地再開発事業による超高層建築物は、環境に悪影響を与えてしまうのです。（つづく）

大規模開発におけるCO₂発生量（トン - CO₂/年）の比較

地区名	主な建物名	既存建物の発生量	建替後の発生量	比較
日本橋室町東地区	コレド日本橋	7,678	9,571	124.65%
銀座四丁目6地区	銀座三越	12,303	12,928	105.08%
京橋二丁目16地区	清水建設本社	2,667	2,823	105.85%
銀座四丁目12地区	歌舞伎座タワー	1,480	6,217	420.06%
京橋二丁目西地区	京橋エドグラン	5,337	7,931	148.60%
京橋三丁目1地区	東京スクエアガーデン	5,300	7,700	145.28%
銀座六丁目10地区	GINZA6	8,716	14,027	160.93%
日本橋二丁目地区	日本橋高島屋	28,681	36,441	127.06%
八重洲一丁目6地区	東京建物ビル	5,533	13,245	239.38%
八重洲二丁目1地区	城東小学校	7,688	17,314	225.21%
京橋一丁目東地区	戸田建設	5,723	9,498	165.96%
八重洲二丁目中地区	ブックセンター	12,465	25,345	203.33%
日本橋一丁目中地区	野村証券ビル	12,915	25,992	201.25%

市街地再開発事業の 合計	7事業	81,335	140,295 (58,960トン増)	172.49%
-----------------	-----	--------	------------------------	----------------